



にゃんこ 搜索マニュアル



こさめ



実体験に基づいた迷子猫を
五日間で探し出す手引書

目次

猫を探し出す3つのコツ	
はじめに	3
猫を探し出す3つのコツ	5
猫を探し出す3つのコツ 2	12
猫がいなくなったことに気づいたら	
猫がいなくなった時のこと	15
猫がいなくなったことに気づいたら...	16
「死ににいった」？「迷った」？「事故にあった」？	18
猫の特徴・環境から探し方と地域を特定する	20
「悪い想像」＜「良い思い出」	21
猫の探し方	
猫の探し方 記録する/人に話す	25
猫の探し方 連絡	27
猫の探し方 ネット	28
猫の探し方 歩いて探す	31
猫の探し方 推測する	34
猫の探し方 ビラをつくる	35
猫の探し方 ビラ見本	37
猫の探し方 ビラを貼る	38
日常生活において	40
猫を見つけたら	
猫を見つけたという知らせを受けたら	43
猫を無事保護したら	45
私たちを振り回す存在	48
おまけ	54
おまけ	56
おまけ	58
おまけ	60
奥付	

改訂履歴	63
奥付	64

猫を探し出す3つのコツ

はじめに

いなくなってからどれくらいの時間が経っていますか？

どこにいるか見つからなくて恐怖や悲しみに襲われることもあるでしょう。
探す気力がなくなることも、絶望することも、何度もあるでしょう。
そんなときは考えないようにしましょう。

心の中に猫の戻ってくるあたたかな部屋を用意しましょう。

そこに戻ってきてくれるよう祈りながら探しましょう。

人に受け入れられて餌と寝床を提供されたときから、
その猫は快適さを与えられることによって自然から引き離されています。
その猫がどうして望んでほかのところを目指す理由があるのでしょうか…

猫がいなくなったと打ち明けると、普通はこんなことを云います。
「死期をさとると姿を消す」

「愛想を尽かす」

「メス猫を求めていった」

そうした定例の説は一度忘れててかまいません。そんなことは問題ではないのです。
もう一度会いたいと思いますか？ そう思えないなら諦めましょう。
もう一度会いたいですか？ そう思うなら探しましょう。

そして、誰がその猫の飼い主でしょうか。

いなくなったからと、もう飼い主の義務を放棄していいのでしょうか。

愛しているか、それだけの問題ではないのです。

例えすぐには見つからなくても、できることがたくさんあります。
この本はその「できること」をただひたすら提案するマニュアルです。

見つかるかどうか、それは運命の決めることです。

けれど、できることをやるかどうか。

それは自分で決めることができます。

できることをすることによって、確実に再会の確率は上がります。

涙に暮れるよりも、「探す」習慣を日常に取り入れることで、再会の確率が高まります。

どうか探し続けてください。

そのことで少しでも安心してください。

安心して楽観的になること。それが第一です。

その余裕があれば戻ってくるかもしれないのです。

そうして、安らいだ心のなかになら、猫はきっと戻ってきます。
もう戻ってこないと思い込んでいる人のところには、

猫も戻りにくくなってしまいかもしれません。

猫ってそういう生き物だと思いませんか？

暑いときは涼しいところ、寒いときは暖かいところ...

いつでも、彼らは彼らにとって居心地のいい場所を見つけるのが得意です。

猫を探し出す3つのコツ

コツをみつつにまとめましょう。

1. 足で探す

いなくなったと気づいた日、その最初の日の行動が大事です。

どうしますか？ ビラを貼りますか？ 保健所や警察に連絡しますか？

それらはとても大事です。けれども、後回しにしましょう。

まずは家を飛び出して探してみましょう。庭にいるかもしれません。

見つかりませんか？

では、どこにいるのか見当をつけましょう。

「見当をつける」ことはとても大事です。

全然見当たらない...

ちらっとでも姿を見かけたけれども逃げられてしまった...

ということもあるかもしれません。

諦めないようにしましょう。

見つかって、すぐに保護できた人にはおめでとうを言います！

いなくなってから、どれくらいの時間が経っていますか？

その時間に比例して搜索範囲は広げる必要があります。

どこにも見当たらなかったら、家に戻りましょう。

休んでからまた探しに行くためです。

体力のある方なら、止めはしません。

どのあたりにいるか見当をつけるため何度も外を探すことは大事です。

探すだけでなく、猫の居場所を見極めるために近隣を観察するのです。

具体的な探し方については後述します。

探すことは単調な作業です。けれどもこれが最重要項目です。

2. 記録をつける

ノートでもツイッターでもかまいません。

いなくなったと自分が気づいた時間、

実際にいなくなったと思われる時間帯を推測しましょう。

どこから出て行ったと思うか、

家の中はどうなっていたか、

自分は何をしていたか、

家族はどうしていたか、

ほかに飼っている猫がいるなら、どんな様子だったか...

家のまわりはどんな状況だったか。

簡単でいいのです。

自分が探すために何をしたか、

時間の経緯ごとに記していきましょう。

そうすると... 満足感がえられます。

そして、時間がたつにつれて、「していないこと」が今度は見えてきます。

探そうと決めてから、

私の場合、まずは捜索用にツイッターのアカウントを取得しました。

もちろん、拡散によって探してもらうことを他者に期待したわけではありません。

探す履歴を記録につけることによって、

自分のしたことに安堵し、

それから冷静にどうすればいいか、

今後の方策を練れるようにするためです。

猫がないということは非日常の事態です。

すぐに自分の手に負える事態ではありません。

一人きりでは難しいことです。

けれども探す人間が搜索についての状況を把握することは大切です。

記録することで冷静になれます。

冷静になるとは、俯瞰的視点を手に入れるということです。

ツイッターでは、

同じように猫を探している人とつながることによって、

同じ悩みを共有することができます。

情報の共有よりも、

同じ気持ち、同じ悩みを共有することは何より強みです。

いなくなってから時間がたっているけど、記録をつけていないという方は...

今までしたことを思い出せる限り、

その時間帯や、どれくらいの時間行なったかを箇条書きにしてみてください。

思った以上に「行動」は少ないことに気づくかもしれません。

3. ビラをつくる

ビラをつくるのも時間がかかります。

まず、どの写真を使うかということ、

文面をどうするべきかということを考える必要があります。

検索の合間に、写真を選んでおきましょう。

文章については、すぐ文章にできるように、簡単なメモをとっておきましょう。

あとの作業が楽になります。

パソコンを持っているなら、とてもいいことです。

画像とテキストを配置させ、ビラをつくる作業が簡単にできるなら、なおさらです。

パソコンを持っていなくても、作業はラクです。

紙に写真を張って、文章を書き込み、どこかでコピーしましょう。

無理にオールカラーにする必要はありません。

白黒のビラしかつけれないなら、文章やレイアウトで丁寧に伝えればいいのです。

無理にお金をかけたり、探偵社や印刷会社に頼み込んでビラをつくる必要はありません。

むしろ、ビラを無駄にばらまく数が増えるほど、

あなたの迷い猫を求める情報は、

世の中の人にとって、

ほかのさまざまな煩瑣な情報のなかに埋没してしまう可能性があります。

それができないから、それをしないためにも、その代わり、足を使うのです。

つまり... 広範に渡るバラマキよりも、受け取ってもらえそうな地域、

人々に対して敬意と礼儀を払い、

注意深さをもって接するのです。

もちろん協力者がたくさん得られたら、どんどんお願いしてもかまいません。

複合的に明るい要素はどんどん取り入れて探すための糧にしましょう。

写真を選んで貼り付けて、文章を書き込む。

そうした作業に、すぐに取り掛かる必要はないかも知れません。

けれど、つくっておくことが大切です。

作り方については後述します。

さて、つくるところまでで、まずは充分です。

「ビラを貼る」ことについては、慎重になりましょう。

猫がいなくらいでビラを貼るなんて、と...

笑われるのではないだろうかと常識的な人なら考えます。

猫のために必死になることについて、つきまとう感情があります。

「恥ずかしい」というものです。

恥ずかしさを克服できない人のとる行動が、

「どうしていいかわからない」「いなくなって悲しい」と泣くことです。

本当はどうすればいいかわかっているけれども、恥ずかしくて、その行動がとれない。

では、ビラを貼るとは具体的にはどのようなことでしょうか。

逆にいえば、どんな方法なら恥ずかしくないでしょうか。

他人に迷惑がかからないよう、やり方を替えればいいのです。

そして、それは猫を探す上でも効率がいいのです。

実は私は家の近隣、向こう三軒...といった界限には一枚もビラを貼っていません。

その界限に猫がいるなら自力で戻ってくるか、見つけ出すかできている可能性が高いからです。

そのことに気づいたとき、私は正直安心しました。

自分を見知らぬ他者から特定されることは、今の時代、結構いやなものです。

けれど、考えすぎる必要はありません。

恥ずかしいと感じるほどの近所には猫はいないのです。

だからといって、普段関わりのない地域であれば、

恥知らずなマネをいくらしても許されるということにはなりませんから、

それは重々自覚しましょう。

他人から見たらたった一日でも、自分にとっては長い長い 24 時間でしょう。

実際、恥ずかしいからビラを貼らないという選択肢もあります。

けれども、家でビラをつくっておくという行為はどうでしょうか。

きっと、たやすくできることだと思います。

つくることによって、少しだけ安心できるはずです。

写真については、今後の検索のために何枚か携帯するための写真も選びましょう。

これで大丈夫です。

猫ともう一度会うための準備が整いました。

ビラを貼ること、配ることについては慎重になりましょう。

自分の恥ずかしさのためだけではありません。

何故恥ずかしいのか...それは受取り手にとって迷惑になる可能性があるからです。

パッと派手にチラシを手当り次第に撒けば見つかるものでしょうか。

それで見つかる場合とはどんな事例でしょうか...考えてみます。

まず、普通の人は猫に注目しません。

近所の人が見つけているなら、自分にも見つけられているはずです。

それ以前に猫は自力で戻ってこれるのではないのでしょうか。

自宅の向こう3軒、といった界限はその時点で搜索範囲からは外していいかもしれません。

手当たりしだいに近所でチラシを撒いて情報が得られるケース...

該当するケースがあるとすれば、恐らく猫が保護されていれば、すぐに連絡がくるのではないのでしょうか。

そのような幸運な可能性にまっさきに賭けるのもいいかもしれませんが...

まずは足で探しましょう。

搜索する地域を特定すること。

観察することです。

これらの手立てについては後述します。

猫を探し出す3つのコツ 2

事実を示しましょう。見つけ出した過程を簡単に報告しておきます。2011.4/10 午前1-3時頃不明になりました。近隣を時間帯を変えて捜しているうちに、夜中、ある地域で鳴き声が聞こえました。翌日、その地域に重点を置いてビラ貼りをしました。4/14 午前7時半頃150メートル内のアパート付近住民より情報がありました。駆けつけて、保護に至りました。いなくなったと気づいたらすぐに探すことです。地図をみることも、足で捜すことです。「いそう」か「いそうにない」か見当をつけることも大事です。

最初、その猫を捜しているのは世界に自分ひとりだけでした。けれども、見つけ出すのは一人の力だけではムリだということが、探しているうちによくわかりました。私の場合、鳴き声が聞こえた、という事が分かれ目でした...あの鳴き声を聞き取っていなかったら見つけ出せなかったかもしれません。もちろん、自分の力なくして見つけ出せはしませんでした。けれど、一人きりの力だけでも保護はできなかったことでしょう。猫が鳴いてくれたおかげです。知らせてくれた人がいたからです。そして、人々が心配してくれる気持ちに、探してそれは捜すうちによく実感できたことでした。

猫がいなくなったことに気づいたら

猫がいなくなった時のこと

まずは私の猫についてお話しておきます。いなくなったのは「老齢」で「雌」の雑種です。活動範囲は自宅のアパートの室内と、その付近、それもごく狭い範囲に限られていました。来歴は7年ほど。我が家に来た時点で相当の高齢でした。野良猫としての生活が長かったのです。推定年齢は14 - 16才程。飼い始めた頃は腎臓と肝臓が弱っていました。腎臓は老齢猫にありがちな症例です。肝臓は野良生活の影響とみられました。獣医にも匙を投げられました。けれど、「イ/ム/ノ/エ-/ス」という薬で見事回復しました。猫に多い突然変異で、通常7本の背骨がひとつ少ない6本のみ。腸が短い影響で便秘しやすく、便秘が痙攣を引き起し、我が家に来たときは近所の広い範囲や壁の上を散歩することもよくありました。活動範囲は年とともにせばまり、週に何度か外にでてでも5分から10分ほどで戻ってくるようになりました。現在、戻ってきてからは外出するときは必ず一緒に出て目を離さないようにしています。4月10日のことです。夜中、私はアパートのドアを少しだけ開けていました。そこからもう一頭の猫が自由に出入り

猫がいなくなったことに気づいたら...

目が覚めてから、改めて恐慌状態に陥ってしまいました。

““

弱い状態の猫を見失うことは恐ろしいことです。

““

絶望しきった状態ですが、たやすく友人知人に漏らすことのできる話でもありません...
心配をかけてしまうだけです。そこで、普段から利用してる twitter で猫がいなくなった
ことをつぶやきました。

““

すると、同じように猫が行方不明になった経験のあるフォロワーさんから、
すぐに保健所などの機関に連絡するようアドバイスをいただきました。

“

それを見て私ははっとしました。

このときのフォロワーさんの一言には今でも感謝しています。

“

泣いている場合ではありませんでした。私の場合はたまたま twitter でした。けれどもご家族がいるなら、まずはご家族に話してみるのがいい手立てだと思います。そして、今後探したい気持ちがあるなら意思表示しましょう。長期的に探すにはどうすればいいか...それは歩いて探すことです。チラシ作成や検索にご家族が協力的なら、それはとてもありがたいことだと思います。もしも協力が得られる見込みがないなら、諦めるように説得される前に、まずは自分で歩いて探せばいいのです。

「死ににいった」？「迷った」？「事故にあった」？

いなくなった猫は老齢の雌猫です。悪い想像を引き起こすための要素はいくらでも兼ね備えています。けれども、逆に考えてみれば、そう遠くまで行くほどの体力も運動神経もないということです。

私の場合は年をとった雌猫でした。これが若い雄であれば、ネガティブになる要素として、遠くへ行ってしまった

いなくなったと気づいたときに、まっさきに思いつく悪い想像は数多くあります。それは「死ににいった」「迷った」「事故にあった」という可能性にわけられます。一番希望があるのはどれでしょう。探そうという気持ちになれるのはどれでしょう。探そうという気持ちになれないのはどれでしょう。死亡の可能性ではないのでしょうか。そう思うと、もう動くことはできません。悪い結果を前提として行動するのは困難なことです。ですから、この三つについてよく考えてみましょう。ひとつひとつ、丁寧に悪い可能性を検証しましょう。「死にに行った」？「猫は死期をさると姿を隠す」というのは本当でしょうか。そうした体験談も聞いたことがあります。私も真っ先にそれを考えました。猫がいなくなって、見つかったときには亡骸になっていた... そうしたことはあります。けれど、それは本当に亡骸を隠すためだけの行動だったのでしょうか。

正確にはこうでしょう。「体が弱い状態で出ていった。戻れずにいるうちに、亡くなった」...それは起こりえることです。死ぬ時期を悟ったのだらうと思えば諦めもつきます。けれども、体が弱い状態で出ていく前の数日の様子からは、「死に場所を求めていく」という雰囲気は感じとれませんでした。食欲もありました。もう一頭の猫を威嚇したり、ふてくされたりと、いつも通りのワガママでした。病気の時になると、猫は一切ごはんを食べなくなることがあります。これはエネルギーを消化ではなく治療にもっていかうとする猫の本能です。今まで見守ってきた病気のときの様子とは正反対でした。どうしても、死ににいくという雰囲気ではなかったと思います。あなたの猫がいなくなる前はどんな様子でしたか？ 思い出してあげましょう。若い猫ですか？ 病気はありましたか？ 健康ですか？ オスですか、メスですか？ 「事故に遭った」はどうでしょうか。少し外を歩くだけで事故に遭う。そうしたことはあります。実質、私は別の猫を事故で失ったことがありました。その猫は野良としての生活が長く事故に遭えばすぐにわかります。近所に猫が事故に遭いやすいポイントがあるからです。そうした場所は猫を飼っていると自然に知るようになるものです。知らない人は、これをきっかけに知るようになるかもしれません。野良猫が事故に遭いやすい場所などに心当たりがあるなら、そこへ行きましょう。怖いことかもしれませんが...どんな状態であっても、きっとあなた

すぐに心当たりの道筋を捜しましたが遺体はありませんでした。あなたの猫はどうでしょうか。確認をとりましたか？ 何か知らせを受けましたか？ そして「迷った」可能性。これが一番あてはまります。ひとつ、予め知っておきたい事実があります。

猫は「今どこにいるかはわかるけれども、現在・過去・未来の概念はない」
のです。つまり「元きた道を思い出しながら辿って戻る」ようなことは
できません。ある一定の自分の行動範囲を越えてしまった場合...自分の匂い
や自分の知っている猫の匂いのしないテリトリーへ入ってしまった場合...
そのある地域のなかを出ることができず、ぐるぐると同じようにまわっている。
猫が迷った場合、そのようなループに陥っている可能性が高いのではないかと
思われます。そう考えるのが妥当ではないでしょうか。

猫の特徴・環境から探し方と地域を特定する

迷ったのだとすれば、その猫にできることはなんでしょうか？なるべくその範囲内で長く生きられるようにするに違いありません。雨風をしのぎ、寝場所を探し、飢えをしのぐことです。若い猫は行動範囲が広いだけに、時間がたつほどに遠くへ移動する可能性もあります。けれど、若い猫なら、猶予はあります。老齢の猫は体力も餌を捕まえる運動神経も相当に落ちています。通常イメージされる猫は、躍動的にジャンプし、機敏に動き、普段はたっぷり眠る。そんな様子が妥当でしょう。猫を飼っている方でも、まだそれが子猫の場合にご存知でないかもしれません... 年をとった猫は少しの段差さえもジャンプして飛び越える力はありません。けれど、それだけに行動範囲が狭いのです。扉へ飛び乗って家家の隙間を闊歩して、パトロールするのは若い猫です。年をとった猫は車の下や物陰にかくれながら、少しずつ移動します。機敏ではありません。この相違は、探すときの視点のヒントになるのではないのでしょうか。それから、探さなくなった日、ほかの猫たちの様子はどうでしたか？今、その猫たちはどんな様子ですか？発情期の猫や喧嘩しているがいるなら、その猫から逃げ出した可能性があります。けれど、逃げ出すのは本能であって、人間のように次のあてがあったり、目的地があるわけではありません。「今の環境が嫌になった」「新天地を求めた」...こんな感覚は実はとても贅沢で、自ら環境をつくりだせる人間の発想です。猫はいつでもただ懸命で、その場その場に順応しようとしているだけです。もしも猫が不満を抱いたのではないかと疑われる要素に気づいたら...飼主として、人間として、どう改善してあげたいですか？探すことに疲れたら、そのように現在の環境の改善に取り組むのはどうでしょう。模様替えや、飼っている猫のケア...その猫を迎える準備を試みるのはどうでしょうか。搜索するのはいいことです。けれども疲れることです。疲れたときには、希望をもてる行動をとると気分がかわります。その猫のなついていた相手は自分でしょうか。ご家族でしょうか。ご家族であるなら、その人が何よりのヒントを持っているはずです。どんな人ですか？その人が何よりもその猫についての様子や、行きそうな場所を知っているはずです。その場合は、その人を搜索陣営の主据えて話をしてみましょう。思いもつかないような探し方を、探すべきポイントを知っているかもしれませんから...焦らずに話し合しましょう。

「悪い想像」 < 「良い思い出」

どんなに慎重な猫でもいつ事故にあうか...縄張り意識の強い猫にどのような危害をくわえられるか...あるいは、心無い人につれていかれたら...悪い想像がとまらないときもあるでしょう。考えないのさあ、以上ができる限りの理性的な推測でした。そこから先はすべて想像にすぎません。先述にあげた3点のコツよりも最強のコツ、つまり心がけを記しておきます。推測はしましょう。想像はしないようにしましょう。捜している間、一切の悪い想像をするのをやめましょう！不安にかられたら、それを上回る、猫にとっての幸せな記憶は何だったか思い出しましょう。つまり

猫の探し方

猫の探し方 記録する/人に話す

☆自分の探した履歴を記録しましょう。ノートでもツイッターでもかまいませんが、時間ごとの行動をすぐに記録できる点でツイッターはおすすめです。自分が探するために何をしたか時間の経緯ごとに記していきましょう。何をしたか記録しておくことで自分が探している実感がもてます。すぐに結果につながらなくても、それは大事です。そして、ただ行動したことだけで満足しないためでもあります。冷静に記録すること、それを見返すことで盲点を見つけるためです。そうすると「していないこと」が見えてきます。これは案外と面倒なことでもあります、とても大切です。また、ツイッターで同じように猫を探している人とつながっていると気が楽になります。逆にいえば、行動しない限り記録はできません。何もしていなければ記録は残りません。していないことを実感するためにも記録は必要です。☆探していることを人に話す。人といっても、自分のまわりにいる友人知人にやたらに話すということではありません。同情はしてもらえるかもしれませんが、猫を探す知識を備えている人がどれほどこの世にいてしょう。協力を得るために家族に話すことも大事です。その場合はさまざまの案を出し合って話し合いをすることも可能です。最初、私は検索範囲を広範に広げていました。自宅から半径50メートル付近を狭い、つまり「すぐに見つかる範囲」とどこかで思っていました。そのことに気づかずにいました。けれど、ツイッターで、ある人がこうしたニュアンスのことをつぶやきました。そんなに探しているのに見つからないなんて...最初、これは心無いつぶやきであるようにも思えました。本当に不安で不安でたまらないのですから。大概の人は不安を煽るようなことは言わないものです。けれど...これにつづく言葉はどう予想されますか？ もういなくなったのではないか。諦めたらいいのではないか。最後まで言われずとも、そのように受け止めることもできます。けれど、こうした言葉も冷静に受け止めましょう。「そんなに探している」の「そんなに」とは？ つまり、まだ探していない範囲があるということです。「見つからないなんて」...これにつづく言葉も「おかしい」と変換すればこう考えられます。まだ探していない範囲があるのではないか、そこにいるのではないか。どんなことでも手掛かりにすることが大切です。自分がいかに心配で不安で平静でない状態かを自覚してみればいいのです。この一言を、素直に受け止めてみました。他者の力を借りる目的でアカウントを取得したのですから。確かにそうです。このつぶやきのおかげで、自分の探している範囲が「広すぎる」のではないかと我にかえりました。そして、広範を大雑把に探すより、「匂う」狭い地域を丁寧に探すように心がけました。そのおかげで迅速な発見につながったと思っています。人に話すと反応はさまざま。でも、そっけないアドバイスでもヒントが隠れていることがあります。会話することで自分の盲点がないか探しましょう。

猫の探し方 連絡

保健所、警察署、愛護センターへの連絡は速やかにしてください。これは最悪の事態を防ぐためです。「警察」遺失物として届けます。猫を拾って、とりあえず交番に届ける人がいる可能性もあります。近所の交番に連絡しておきましょう。ほかの機関は時間が限られていますが、警察署への連絡は24時間対応してもらえます。110番ではなくきちんと警察署の番号を確認して連絡しましょう。「保健所」これは市区町村ごとに分かれている機関です。ペットの失踪、または保護届けを受け付けます。猫の年齢、性別、種類、毛の色などの特徴を記帳してもらいます。保護してくれている人から連絡があれば、教えてもらえます。私は区と区の境目に住んでいるため、自分の住んでいる区だけでなく、隣接している2つの区にも連絡しました。広範から絞り込むということも大事です。広い範囲から探して「そこにはいない」ことを確認しながら、探す範囲を狭めていくことも有効です。「動物管理センター」都道府県ごとに分かれている機関です。東京の場合は「東京都動物愛護相談センター」(03-3302-3507)があります。2,3日に一度連絡しましょう。定期的に連絡すると整理番号がふられます各自治体により対応は違うのかもしれませんが、怪我をしたり、病気の飼い主不明猫を保護して手当をしてくれます。ただ、収容には期限があり、その期間を過ぎてしまうと処分されてしまうこともあります...どうぞ、まめに連絡して下さい。「清掃局」自治体によって異なるかもしれませんが...猫が区道や市道で交通事故死した場合、近隣の人から連絡があると、役所の土木課や清掃事務所などで遺体を回収します。区によっては業者が代行して行っているケースもあります。ほとんどの場合、日時や場所の記録だけしか残してもらえず、猫の特徴までは記されないようです。けれど、それを手がかりとして事故現場の近所の人などに聞いてみるなど、自分で調べることができるかもしれません。上記は最低限連絡しておきたい機関です。探す時間が長引く場合は、かかりつけの獣医師・動物愛護団体等にも、ご相談をおすすめします。連絡するときのコツは、冷静に、わかりやすく話すこと。必ず猫の特徴を聞かれますから、例え「承知している」と思っている、話すとすると咄嗟に言葉が思いつかない場合もあります。いなくなったと思われる日時、状況、猫の特徴をメモしておいて連絡しましょう。場合によってはネガティブなことや、逆にポジティブなことを言われるかもしれません。それらはすべてヒントとして受け止めましょう。それから、見つかったら改めて報告の連絡をすると伝えておく相手の印象も変わります。

猫の探し方 ネット

探すためにネットを利用することもできます。迷子猫の専用サイトや地域サイトなどはまっさきに登録しましょう！ただ、それが有効かどうかは気持ち次第です。インターネットは有効な手段と思われませんか？はっきり言えば、インターネットに「具体的に有効な情報をもたらしてくれる」ことを期待する場合、その効果は限りなく0に近いです。例えば猫を探すために起こしたアクションの10割において、目撃者・情報提供者としてネットが寄与してくれた割合は0割でした。ネットを利用する前にその心構えが必要です。警察に連絡したとき、「普通の人は猫なんか気にしませんからね」とはっきり言われました。その通りだと思いました。これはいいヒントでした。けれども、「励ましを得る」「探し方を知る」ためのツールとしては、これ以上頼りになるツールもありません。気持ちの上での支援者としては高い確率で味方になってもらえます。インターネットは有効な手段として私はカウントします。情報は得られません。それでもカウントできます。【twitter】電話や手紙やファクシミリといったものに並ぶ人間の新しい連絡手段です。ツイッターはその代表的な一例です。ツイッターでは、時折、いなくなった猫や犬の情報を求めるつぶやきが拡散されてくることがあります。【拡散希望】といった題目でRTされる文面を一度は見たことがあるでしょう。これを普段から目にしていると、拡散してもらえるとこの気持ちから頼れそうなものと錯覚しそうになります。ですが、正直なところ、どれだけ頼れるものでしょう。もちろん、拡散してもらうことはできるでしょう。けれども拡散してくれた人の人数＝一緒にになって猫を捜してくれる人の人数ではありません！あくまでも協力してくれる人の人数です。しかも、それは心理的なものです。【拡散希望】とあるつぶやきを見ると、あっ、この人はかわいそうな人だな、と思います。そうするとやはりRTして手助けしようと思います。けれど、「いずれ近くの地域の人にRTされてその人が意識するだろう」というところで終わります。これは本当に捜している人にとって物理面でどれほど手助けになるのでしょうか？本当に近隣の人がRTを見て、意識して、その猫を見つけだし、その人に知らせるに至った例はあるのでしょうか？少なくとも、私には信じられない気持ちが大半でしたし、今でもそうなのです。それでも、まったく効果がないとは言いません。ただ、RTを希望する人にはこのことを申し添えます。RTだけで安心してはいけません。世界に一頭だけの猫を探し出して見つけ出したとき、駆け寄っていくには何が必要ですか？駆けつけるための足ではないのでしょうか。結局のところ、指先だけで探せるものではないのでしょうか。ただ、捜している人はRTによって、自分に協力を示してくれる人がいることは励みになります。そうして「していること」のひとつとしてカウントするなら大きな役割を果たします。けれど、それだけではいけません。例えば熱心な協力者が見つかったとしても、その人は近隣に住ん

でいますか？ 逆に近隣に住んでいる人が見つかったら、その人は熱心に猫を気にかけていますか？ この条件が合致する人はどれだけいることでしょうか。「普通の人は猫なんか気にしませんからね」これはうんざりするほど、仕事として猫を探す人たちに接してきた職業の人が漏らした言葉なのです。そこには経験に基づく実感がこもっていました。生まれて初めていなくなった猫を探している当事者からすれば、信じられない！ という思いもあるかもしれません。あんなにかわいくて、かわいそうな猫を気にかけてもらえないなんて... テレビやブログで有名な猫ならともかく... こう考えましょう。それが世界一可愛い猫であったとしても、自分がそれを独占してきたことによって、世の中の人が知らないのは当然です。今自分はそんなにまで愛らしい猫を独占したことによって、その行為の責を負っているのだ、と。それほどに可愛い猫を独占することによって世界は損害を受けているわけです。では、今自分がそんなにつらい思いをするのも反動ですから仕方ありません。ただ、インターネットのメリットは別にあります。名も知らない人が心理的に協力してくれるのです。私は猫がいなくなったと気づいたときから、すぐに猫捜索用のアカウントを作成しました。なぜ普段のアカウントを利用しないか？ ふたつの理由があります。まずは、猫がいなくなったことを、知人友人に打ち明けることが躊躇されたためです。心配をかけてしまうからです。相談するとしても、それは自分自身が落ち着いた状態で打ち明ける方がいいでしょう。そして、もうひとつ。不利益な情報もたらされることを防ぎ、利益のある情報を求めるためです。普段、自分のまわりにいる人たちは、けして「迷い猫を捜す」ことを目的とした集まりではありません。何しろ非常事態です。まったく猫を飼ったことも捜した経験もない人たちに、いくら噂を伝播してもらっても見つかる可能性は増えません。一言でいえば、捜していることを示してしまうと、同情や励ましや慰めばかりもらってしまい、ますます捜す足は鈍るのです。励ましや慰めは嬉しいかもしれませんが。それに応じる気力があるのなら周囲の人に知らせるのもいいでしょう。ただ、どんな反応であれ、多かれ少なかれ困らせる事には違いありません。なかには、先回りして、頼んでもいないのに協力を断ってくるような人もいます。相手の人間性を試すにはいい問題提起かもしれません。果たして、そんな試験をする権限があるのでしょうか？ 第一、その試験を行なったところで、猫が見つかるのでしょうか。いい関係を保つためにも、あまり話さないほうがいいでしょう。もちろん、信頼して打ち明けられる相手がいるなら何でも話してしましましょう。相手に悪気がなくても、有効な協力が得られるほどの密接な関係でない相手には伏せておくべきです。例えば家族であっても協力が得られそうにないなら... いや、阻害を受けそうな予感もあるなら、自分から話すのは困りものです。例えば、小さな子がぬいぐるみをなくしたとき、すぐにこういう親だったらどうでしょう。「それはあきらめなさい、新しいのを買ってあげるから」けれど、その小さな子が学校や幼稚園に行けば、そこには捜すことに協力的な友達や先生がいるかもしれません。そういうことです。どちらが悪いということではありません。きっと諦めるよう促す親にも悪気はないのですから。ただ、捜す上で、何が重要かということです。そうした意味で、同じように猫を捜している人とフォローしあって、探し方について情報交換したり、励ましあって捜すことにより気力を保つことは大切です。見つかる可能性はあがります。そして、ツイッターにはつながりを持つ以上のメリットがあります。それは先述の通り、記録性です。短いつぶや

きを時間とともに記録できる。探した履歴を記録することにより、行っていないこと盲点が確認できるのです。長期に搜索をすると決意した以上は記録は大事なことです。私は、アイコンに、捜している猫の写真を添付しました。いなくなった状況と捜している旨をプロフィールに打ち込み、アカウントを作成しました。プロフィール欄などに「猫を探してます」と記載して、単に「今日は～をした」といったつぶやきをするのが便利です。アカウントを作成してから、猫を捜している人をどんどんフォローしました。また、近隣に住んでいることが明らかな人もフォローして、捜索している旨を拡散してもらいました。これは上記のように効果を期待していた行動ではありません。ただ、「行動していない」ことを減らすための行動です。それは大切なことです。けれども、思ったよりも多くの人が親切な言葉をかけてくれました。そのことによって大いに励まされました。ポスティングやビラに協力を申し出てくださいる方もありました。実際に協力を得る前に発見に至りましたが、リアルな搜索につなげていけるなら、とても有効な手立てだといえます。また#（ハッシュタグ）が役立ちます。この「#」のあとに自分の気になる単語を打ち込んで検索をかけると、その単語を織り交ぜたつぶやきが一気に検出されます。もちろん「迷子猫」といった単語からも検出されます。同じように捜している人に知らせたいつぶやきや、情報を得ることができます。例えば「今日似ている猫の目撃情報をもたらえた！ # maigo」とつぶやきます。すると、「# neko」「# maigo」で検出した同じ仲間を見つけやすくなります。有利な情報をもたらしあえるつながりが広がります。「ああ、この人は有利な情報を得たんだな。どうやって捜しているんだろう？ フォローしてみよう」と。【2ch】私はあまり利用しませんでした。けれど、大型掲示板ではもっとフランクに詳しく探し方を教えてもらうことも可能です。保護情報の記事に励まされることもあります。まとめると、ネットのメリットは励まされる、相談ができる、近隣住人に匿名で伝わることでしょう。ネットのデメリットは目撃情報にはすぐにはつながらないことです。場合によっては心無い反応も得ることがあります。けれど、それもヒントに替えてしましましょう。何しろ目的は「猫を見つけ出す」ことですから。

猫の探し方 歩いて探す

いなくなったことに気づいたら... 事故に遭っていないかを確認することは先述の通りです。まずは半径 100-200 メートルほどの地図を見てください。若い雄猫ならもう少し広げてもいいかもしれません。オス猫はメス猫の 13 倍の範囲で行動します。若い猫であるなら 300-500 メートルほどの範囲が妥当かもしれません。そして、いなくなってから時間が経っているなら、その時間に従って範囲を広げる必要があるでしょう。残念ながら私にその比率の統計データはありませんが... ご存知の方がいらっしゃいましたら、是非ご一報願います。とにかく、まずは地図を広げましょう。実は記録すること以上に、この地図を広げるという行為は大事です。見逃している範囲はありませんか？ どのあたりにいそうな気がしますか？ 明らかにここには行きそうにない地域は思い切って除外しましょう。私の場合、家の裏手にほとんど水のない川があり、向こうへは橋を渡らなければなりません。その向こうには学校がありますが、どうもそちらへ行ったような感じはしないのです。その橋を渡る前に川沿いでまごまごしてしまうことでしょう。そちらへの方角はそうした理由から除外されます。探す範囲として諦めるということではありません。その川沿いに猫はいませんが、犬の散歩をする人たちの通り道です。猫がいそうにないとしても、情報を得やすいのです。ビラを配る地域としても、考慮の対象から外れることはありませんでした。そこでは、刷ってあったビラも渡しやすく、話しかけると足を止めて話を聞いてもらえます。なかには自分も猫を飼っているという人もあり、笑顔で応じてくださいました。一方、公営の団地が立ち並ぶ地域があります。私は、どうにも、そこを探すのが憂鬱でした。そこでは猫の存在がいやがられるからです。けれど憂鬱だからと探さないなんて飼い主失格か？ と... 責任と罪悪の気持ちのせめぎあいでも苦しみました。しかも範囲が広すぎるのです。そのあたりは、霞がかかっているかのように探しづらいのです。悩んで搜索の足が鈍りました。そこで、時間帯を夜に絞って、懐中電灯を手にして探すことにしました。「していない行動」をなくすためです。改めて探してみてわかったことがあります。その地域をかたちづくる人たちが、その環境をつくっている以上... 猫を厭う人たちがその環境をつくっている以上... 猫にとって居心地のよさそうなスペースも当然存在しないのです。あたりまえのことかもしれません。猫を飼っている人がいないので、猫のくつろげる場所は少ないのです。草は綺麗に手入れされ、公園も清潔です。不法にゴミを捨てる人も少なく、建物の前も殺風景なほど片付いています。花壇にはかわいい花が根を張り、大きな樹木もあります。けれども壁の位置は高く、その壁の幅は狭く猫が通りやすいブロック塀でもありません。整備されているがために猫が隠れる場所はほとんどないのです。猫が住みにくい環境だということが、しみじみと観察されました。その地域が自分の家からひどく近い地域であることを差し

置いて、検索範囲としての優先順位をさげることを決意できたのは、この夜中の探索の効果でした。結論から言えば、やはりその周辺にはいませんでした。夜の探索は有効です。手がかりをつかめるからです。例えば野良猫や別の飼い猫を見つけることができます。猫がうろつく地域に紛れ込んでいる可能性は高いのです。そうした地域を特定するためにも、夜間の探索は有効です。ただし、すぐに捕まえられるというわけではありません。焦らないことが大切です。そして、懐中電灯は必須ですが...ご近所の迷惑にならないように使用しましょう。呼びかけすることも大事ですが、やはりご近所の迷惑になることも考えられます。また、恥ずかしさも手伝うことでしょう。無理に呼びかける必要はありません。それよりも、耳をすましてください。夜なら静かなので、猫の声が聞こえることがあります。最初の二日ほどは、ここにいそうだと「匂う」ところを時間帯を変えて何度も歩きました。いなくなった日の翌日、その夜、私は自分の猫の声をある限界でキャッチしました。慌てて探し回りましたが、けれど、その日は見つからずじまいでした...それでも十分な手がかりでした。結果としては、この「耳をすます」行為が、その限界にピラを貼ることを決断させたのです。睡眠時間を削って歩き回る、それは無駄ではなかったのです。地図を見ましょう。ここにはいそうにない、という地域はありますか？探しにくい地域はありますか？自分を信じてください。ここにいそう、という場所があるなら、恐らくそのあたりにいる可能性は高いです。何故なら、世界一かわいいその猫に最も詳しいのは飼い主の自分だけだからです。彼女、あるいは彼と日々接することで、親密性を高めた経験によって、自分にはその猫に対する勘が備わっているはずです。まずはとにかく足で探してください。探していない箇所がない、探していない時間帯がないというくらいに。それから、気になる地域を特定しましょう。特定できたらそこにチラシを貼り、日をわけても構いませんから、そこだけは探していない時間帯がないよう、繰り返し歩いてみてください。日中はまんべんなく付近を捜してください。休日の昼間は中高年の方が街を歩いています。犬の散歩をしている人や、優しい方がいたらピラを渡してみましょ。深夜は若い人が出歩いています。カップルやジョギングしている人、部活の練習をしている高校生など...深夜出歩く若者は、行動力もあり好奇心も旺盛です。そのためか、反応がいいのです。そのときは笑顔で声をかけて、「猫を探しているのですが...」と様子を伺いましょう。相手の反応次第で会話をすすめて、渡しても大丈夫そうだったらピラを受け取ってもらいましょう。それから、もしも見つかったら区の掲示板に「保護」の印をつけますから！と添えてみましょ。そうすれば「任せっぱなし」の印象がなくなります。自分以外の猫飼いためにも、猫飼いの印象を悪くしないように心がけましょ。猫を飼っている奴ってやっぱり無責任だ...などと思われまいよう、気を付けましょ。もちろん断られることもあります。気落ちすることもあります。けれども相手に悪気はありません。そんなときは「失礼しました」とお詫びして、すっとさがればいいのです。一喜一憂しながら探しましょ。すべてがヒントです。どんなタイプの方が協力的かよくわかるようになります。うちの街では協力的な人が少ない...いやな街だから...人が少ないから...そう思われることもあるでしょう。私も自分の街は弱点がたくさんあると思っていました。その街のほかの住人や色々の施設に協力を求める間ですら、そうでした。実際、嫌なこともありました。けれども、それを記すことはマイナスイメージを喚起するので、ここには記しません。猫にとって、

猫を飼う人にとって、住みやすい街とはどんな街でしょうか。かわりに、私が搜索を決意した原動力のなかで一番の負の要素を記します。私が猫探しを焦った最大の理由は、かつて、野良猫や近所の方の猫を故意に怪我させた人が近隣にいたためです。虐待は獣医につれていくとわかります。猫の体は大きなものではありません。もしもある力をくわえたら...圧倒的な力を加えたら、例えば車の事故ということになります。致命傷か死亡せざるを得ないような状態になってしまいます。それは全身に及ぶケガです。けれども猫の喧嘩ならそれは例え引っ掻かれても嘔まれても局所的なケガにとどまります。では、もしも「局所的に」「圧倒的な力が加えられた」とわかる...例えば「顎の骨だけが破碎されている」「足の骨だけが一本だけ折れている」としたら？局所的に圧倒的な力がくわわること、ありえません。猫の体は柔軟で運動神経がすぐれています。けれども何か失敗をすることもあるでしょう。例え失敗するとしても、このような怪我には至りません。もしそこまでろい生き物だとしたら、猫は現在のような形状を保つような進化はなしえなかったでしょう。ですから、急いで行動を開始する理由がありました。結果として、猫を見つけ出すまでに、何度も優しい人たちに助けられました。不信感でいっぱいだった近隣を見る目も、少しだけ和らげることができました...探すそばから感じていたことですが、猫は私に課題ともに贈り物を託してくれていたのです。地道に探すという気力を要する行為への報酬が、いつでも何かひとつ付いてきました。その街の嫌なところについて目を向けるなら、同じくらい、いいところにも目を向けましょう。例えば人が少ないから目撃情報が期待できない場合は...同時に、焦るほど酷いことをする人も近隣にいないのではないのでしょうか。あなたの暮らす街はどんな街でしょうか。それはあなたが一番ご存知です。猫が行きそうな方角はどちらで、どんな場所にいそうでしょうか。地図を広げ、街を歩けば、そこで暮らしているあなたに備わっている勘が、今まで目を向けていなかった新しい側面をその街から引っ張り出してくれます。もちろん、他人から聞いた情報に振り回されてはいけません。けれども、情報を得たら、何か気に係ることが生じたら全部記録しましょう。疲れたらそこに愚痴も連ねてしまいましょう。それから、その記録を何度も読み返しましょう。ヒントが見つかるかもしれません。場所、探し方、盲点が見つかるかもしれません。見つかったらその記録は航海日誌になります。愚痴のページはそのときには破り捨ててしまえばいいのですが...けれど何故あなたが怒りを感じるのか、そこにもヒントがあるかもしれません。事実、自分の行動が見当はずれにみえると言われたとき、私は怒りを覚えました。こんなに探しているのに...と。けれども、それは確かに見当違いでした。広範にわたって探しすぎていたのです。それが反省につながり、狭い範囲のなかにいた猫を見つけ出すことができたのです。そして、その言葉を投げかけてくれた人は、私よりも確かに猫のためをおもって言葉を放っていたのです。

猫の探し方 推測する

先述の通り、悪い想像はしないことが大切です。けれども、具体的な推測はおおいに結構です。例えば春、猫はどうしていますか？ ひなたで居眠りしているのではないのでしょうか。猫はあたたかな時期であれば昼間は外に出ます。私のもとに、ある朝、「裏のアパートの庭でひなたぼっこしてます」という連絡が入りました。急いで住所を尋ね地図をプリントアウトして... 駆けつけました。猫は自宅から150メートルほど離れたアパートの庭にいました。その庭の環境は自宅の環境に似ていました。古いアパートの狭い庭。そんなところが猫は大好きです。そのあたりを探しに訪れたときに「ここ... なんか怪しい」と思った、まさにその場所でした。そして、夜中に彼女の声を聞きつけた、まさにその場所でした。ヒントは自分のうちにあります。その猫はどんな猫で、どんな場所が好きですか？ 季節や状態から推測します。どこにどんな状態で隠れていそうですか？ 書き出しておくのもいいでしょう。合致する場所があったら、しつこく探してみましよう。人に尋ねて、ビラを貼ってみるのはいい手立てです。ある程度行動したあと、その推測になら、自分の猫を知っている人を巻き込んでもいいかもしれません。自分が何もしていない状態であるにもかかわらず、「猫がいなくなった」という不安や心配を打ち明けただけでは相手を困らせるだけです。どうすればいいかわからない場合に人は困るものです。困っているから相談にのって、推測に付き合っ、とすれば親身になってもらえるかもしれません。考えをまとめるために話を聞いて、とするのもいいかもしれません。何もしていないうちから相談する事の危険が、行動してみるとよくわかるのです。

猫の探し方 ビラをつくる

かわいい写真にこだわらないことが大事です。部屋のなかのくつろいでいる姿、安心した姿の画像を用いれば、見る人の関心は集まりやすいかもしれません。実際、行方不明の猫はどんな様子で外にいますでしょうか。人が見かけたとき、部屋のなかのくつろいだ態勢はとっていないのではないのでしょうか。不安がっているはずですが、もしかしたら警戒心をおおいにむき出しにしているかもしれません。それを前提とすれば、ちょっと変な表情、不細工でも不安そうな表情や不機嫌なものを選ぶのも手立てではないでしょうか。☆文章名前、いなくなった状況と日時、柄、性別、年齢、性質を最低限記します。文面はなるべく簡素に猫の特徴をまとめましょう。あまり凝った表現だとわかりにくくなります。実は色々と考えた末に、私は名前を記しませんでした。けれど、ビラを配布したときに名前を聞かれることが多くありました。名前もきちんと記しておけば、きっと親しみがわいて探しやすいのでしょうか。また、「心配しています」、「よろしくお願ひします」という文を入れるといいかもしれません。この二言があると見る人の共感を得られます。猫を見つけた場合、普通の人はどう接すればいいのかわからず困るようです。そのためビラを見ても「自分には関係ない」「何もできない」と思われやすいようです。そこで「見かけたら連絡を下さるだけでも幸いです」など、どうすればいいかを具体的に記すといいかもしれません。☆工夫1 切れ込みをいれて、連絡先を千切れるメモ欄をつけましょう。見た人が切り取ってちぎって持ち帰れるように切れ目をいれておくのです。私の場合は携帯電話とメールアドレス、twitterのアカウントも記しました。メモと文面には「公衆電話・非通知の着信には応じません」と明記しました。イタズラ電話の防止です。「持って帰ってもらって目撃情報を得る」ためだけではありません。このメモは探す上での重要な手掛かりになります。ビラを貼ってから後日確認しに行くと、このメモを持っていってもらえる地域と、まったく手つかずな地域があることがわかります。動物禁止の公営住宅の付近に、茂みの深い公園があり、その界隈にも貼ったのですが...猫に興味を示すこともはばかれるようでメモは手つかずでした。先述の通り、「猫に関心がない人々のつくる環境は猫にとっても生きづらい」ようになっています。メモが手つかずのビラを見て、その界隈がますます見つかる望みの薄い地域である確信を深めました。メモがどの程度ちぎられているかで、その地域の特徴もつかめます。そうやって徐々に搜索範囲を絞ることができます。探している間に大事なことは「見つかる可能性を高める」ことだけではありません。「そこにいない」ということが明らかである地域を確認することも大事です。これは一種困難な作業で、憂鬱な作業でもあります。落ち込みそうにもなります。けれど、「いない」ことが確実な地域を地図の上で広げることが、「ここにいる」と思われる地域を狭めていくことにもなります。☆工夫2 これは重要なことです。

なかにはビラをいやがる方もいます。「猫を探す」とはとても個人的なことです。一方、もしもご覧になる方がいたなら、それだけでありがたいことです。文面の最後に閲覧への御礼を述べておきましょう。そして、これはビラの端でかまいませんから、「一定期間を見込んではず」ことを明記しましょう。そうすれば、近隣の、猫に関心のない住人を固定観念や不安から解放することができます。「いつまでこの人を不安にさせるビラをそのままにしておくのか」「無関心な自分は冷たいと噂されないか」「猫が見つからなければ近隣に住んでいるのに見つけられないというだけで謗りを受けるのか?」といった考えから、です。「チラシを閲覧いただきありがとうございます。一定期間がすぎたら剥がします」見つかったとしても、そうならなかったとしても、隣人は隣人です。互いに不気味な隣人のままとならないためにも、この文章をいれましょう。次のページに実際に作成したビラの見本を掲載します。

猫の探し方 ビラ見本



この猫を探しています。



N区S町より、1/1（日）午前1-3時頃、猫が散歩にて
たまま戻りません。
茶に黒の縞です。尻尾が短くカギ尻尾です。メスの老猫
でおとなしく痩せてます。急に元気になることも。
体力がないので心配です。
目撃や保護した場合は下記まで情報をお寄せ下さい。
どうぞよろしくお願いいたします。

Twitter ***

Mail *****

Tel****-*****-***** (非通知・公衆電話は拒否します)

※ 御覧頂きありがとうございます。このチラシはご迷惑になら
ないよう一定期間を見込んで剥がします。

<p>非通知 公衆電話は拒否します</p> <p>Tel*****</p> <p>Twitter *+ *****</p>	<p>非通知 公衆電話は拒否します</p> <p>Tel*****</p> <p>Twitter *+ *****</p>	<p>非通知 公衆電話は拒否します</p> <p>Tel*****</p> <p>Twitter *+ *****</p>	<p>非通知 公衆電話は拒否します</p> <p>Tel*****</p> <p>Twitter *+ *****</p>
---	---	---	---

猫の探し方 ビラを貼る

ビラ配りはデリケートな作業です。自分にとっても周りにとっても。ペットショップや獣医はビラには協力的です。まずはそのあたりに掲示をお願いしましょう。街中でビラを貼る場所は、あらかじめ検討する必要があります。あまりたくさん貼らないようにしましょう。むやみやたらに配布するのによしましょう。なぜなら、見る人の関心が薄れるからです。迷惑でもあるかもしれません。では、どうすればいいのか？ 足で探し歩くのが大事な理由がここにもあります。探しながらビラを貼れそうな場所の見当をつけておくのです。どちらに貼ればいいのか。どなたに配ればいいのか。それは住まいの環境によって、さまざまだと思います。私は、ここにいそうだなと「匂う」地域には特に二枚貼りました。それはゴミ集積場の付近の電信柱・十字路やT字路でした。ゴミ集積場は「寄り合い」の場で、誰の目にも触れるからです。家屋のすぐそばにあって近接している建造物や電信柱は、その家の人がいやがるかもしれません。どうしても...と気になる場合は、きちんと確認をとって貼らせてもらいましょう。もうひとつ気になるポイントとして、犬の散歩コースとなる川の沿道がありました。その川の欄干に広く間合いを取って貼りました。ただ狭い範囲にたくさん貼ってあるだけでは目にとまりません。広い範囲にポツンポツンと示しましょう。区や市の掲示板には自由に貼付可能な場合があります。この掲示板にはいろいろの種類があります。自治会、町内会、区のお知らせ板・区の掲示板など...私の住まいの場合ですが...区の掲示板には二種類ありました。「区のお知らせ」用と「区民の掲示板」があり、後者は自由に貼ることができました。そこで、区役所に問い合わせしてみました。区役所のホームページに自由に貼ることのできる掲示板のマップが掲載されているとの事。すぐに確認して、できる限り利用しました。そのホームページで確認したところ、自治会用の掲示板には許可が必要なようでした。もしも猫のいない時期が長引いていたら自治会にも問い合わせていたかもしれません。公的な施設も気になるところです。地域センター・老人ホーム・中学校にビラを貼っていいか確認しました。地域センターと老人ホームでは断られました。中学校はOKで教員の方にビラを渡しました。けれど、見つかったから報告と回収に伺ったところ、ビラは貼られておりませんでした...結局その場ではOKでも、生徒への影響などを鑑みてだめになったのかもしれません。児童館にも足を延ばそうと思ってましたが、貼る前に猫が見つかったので可否は不明です。結論からいえば、公共施設は協力できない立場にある模様が垣間見られました。動物愛護精神に欠けるというのではなく、個人的な依頼は気軽に受付できないのでしょう。これは私の住まいのケースです。なかには協力的なところもあるかもしれません。

日常生活において

立ち別れ いなぼの山の 峰に生ふる まつとし聞かば今帰り来む猫がいなくなったとき、一度は話題にのぼるおまじないがこちらです。この和歌を書いた紙を猫の出入り口、トイレ、食事どころに逆さに貼る...というものです。食器はきれいに磨いて伏せておくことです。迷信、おまじないの類ですが、侮ることなく試してみました。実際に試してから数日後に見つかります。ただ、これが実際に発見につながった理由とは言い切れません。ビラを貼ったり、足で探し歩いたり...という物理的な労力が必要でしたから。けれども、まったく効果がなかった...意味がなかった...とも言い切れません。猫がいなくなったとき、猫の通り道や生活していた空間で過ごすことは自分を落ち着かない気持ちにさせるものです。ああ、あのクッションの上でくつろいでいたのに...ああ、このお皿でごはんを食べていたのに...後悔ばかりが押し寄せます。けれども、騙されたと思ってこのおまじないを試してみると心がけが変わってきます。食器をそのままにしておかないことで、「いないからだめだ」という心境が、「戻ってきたらたくさん食べさせてあげなくちゃ」という気持ちに切り替わります。通り道や猫のいた空間に張り紙をすることで、「ああどうしてるだろう...」という寂しさが、「そうだ、いないんだから探さなくちゃ」という意識が変わってきます。何度でも繰り返します。悪い想像をしないこと、無心に探すこと。これに尽きます。人間には知恵があるのです。最大限生かしましょう。「ああなったらどうしよう、こうなったらどうしよう」など悪い想像はやめましょう。「帰ってきたらああしよう、こうしよう」と想像しましょう。逃したことの反省は見つかったから生かしましょう。まだ何もしていないうちから、いなくなったことを反省するのは早すぎるのです。

猫を見つけたら

猫を見つけたという知らせを受けたら

ピラを貼った日の翌々日頃でしたでしょうか。私は疲れ果てていました。すぐに結果が出ないのは承知でした。それでもやるべきことは残っていました。疲労も義務も何でもありません。ただ、やるべきことが減ってきている事実が心細くもありました。休日を含めて、少しずつ時間をずらして探していました。探していない時間帯はほとんどありませんでした。あるとすれば夜中の3時から5時の間頃です。この丑三つ時の間だけがまだ探していない時間帯でした。それから、ツイッターから、近隣の方よりポストイングの協力を申し出て頂いていました。ポストイングの範囲を考えると一人では無理です。公営団地は避けるとしても、近隣に協力的な地域はあるだろうか。改めて、近隣の住宅街はアパートやマンションといった集合住宅がほとんどです。いっその地域一帯に関わっている不動産会社や管理会社を調べて、片っ端から連絡していこうか。もしも猫を見つけたら知らせてほしい、という押しつけをするほどの凶々しさはありません。けれども、もしも迷った猫を見つけたという住人がいたら、そうした相談を受けたらどうしているか。その対応だけでも確認しておけば安心できるかもしれない。そんなことを考えていました。早朝に眠りについてから、午前7時頃でした。携帯が鳴りました。すぐに目を覚まして通話を受信すると、遠慮がちな女性からこう問われました。「あのう...ピラを見たのですが、まだ探していますか？」情報提供かと思い、ありがたく思いました。もちろんまだ探しています。すると、こう言われました。「うちの裏のアパートの庭先で...日向ぼっこしているのですが...」私は硬直しました。かえってどう動いていいかわからなくなってしまいます。焦りながらも、その方から、状況を伺いました。その方は一戸建てのお住まいで、小さい子がいるから猫を保護するのは無理だとの事。もちろん情報提供だけで充分です。ピラを見て連絡してくれたことを明かし、誤認でないかと柄を照会してから状況を伝えてくれました。慌てていたので、着替えて飛び出して走り出しました。その位置はすぐ近くであったためです。走り出してすぐに気づきましたが、近隣の建物は密集しています。すぐに引き返し、冷静に地図をプリントアウトしてそれを握り締めて再びダッシュしました。教えてもらった界限に到着しました。連絡してくれた女性は丁度お子さんを送り出して近隣のお母さんたちと井戸端会議をしていました。私が駆けつけると気がついてくださって、お忙しい朝の時間帯であるにも関わらず、その場所へ導いてくださいました。その場所に猫の姿はありませんでした。女性の話によれば、さっきまで寝ていたのにアパートの大家さんが追い払ってしまったようです。年をとった猫ですから、そう離れてはいないはず。女性の話を聞きながら、私は内心嘸然としていました。そこは確かにいなくなった直後の夜、猫の声を聞きつけた場所でした。また、搜索しているうちに、このあたりにいそうだと思われた場所でした。空き地があっ

て、廃材や、なぜか必要のなくなっただけのものや、置かれている場所。駐車場、アパート...猫の隠れる隙間のたくさんある場所でした。その場所はビラ貼りの条件をすべてクリアしている場所として選んだのです。こうまで思惑通りに連絡がはいるとは思っていませんでした。そして、そのすぐ近くの古い家の前の駐車場、そのトラックの裏に私は猫の姿を認めました。さて、保護するときは、怯えているので静かに近づくことが大切です。そのことは猫の探し方を記したサイトで頭に入れてありましたが...実際に再会してみると、あまりの安堵と喜びと、強烈な感謝と、また逃げられたらどうしようという恐怖で動けなくなるものです。名を呼びかけても、猫は逃げようと右往左往します。どうにか私は近づいて、持参していた猫缶をあけました。それを置いて少し離れると、即座に近寄ってきました。食べるのを待ってあげたいところでしたが、すかさず抱きしめました。どっと疲れがこみ上げてきました...そのあとのことは後述しましょう。猫を捕獲するときの要点はいくつかあります。静かに近づきましょう。呼びかけはしない方がいいです。すっかり怯えて不安がってしまってます。もはや他人扱いだった感触です。あまつさえ逃げようとするのです...こんなに探していたのに、と悲しくなります...けれど、当たり前のことです。それがあたりまえの反応でした。飼い主だからといって、焦ってはならないのです。正面に回りこみ、エサを置いて、近づいたところをキャッチしました。これは老齢猫だから可能だったのかもしれませんが。捕獲するときどうするか、ご自身の猫の性格や年齢からどうするのがいいか、あらかじめ考えておくといいかもしれません。好物のごはんを持ってかけつけることは重要です。空腹でしょうから。目撃情報を頼りに駆けつけたけれども再会できない場合、あるいは、再会したけれども逃げられてしまう場合もあるでしょう。そういう場合は高望みをしすぎたのだと意識を切り替えましょう。まずは目撃情報を得たことに感謝しましょう。再会したことに感謝しましょう。探すべき地域が特定されたのですから、探す労力がそれだけ割かれて、手段も限られたはずです。何より生存の確認ができたことを喜びましょう。そして、一度や二度逃げられても諦めないことが肝心です。猫は嫌がって逃げたのではありません。飼い主の用意した快適な環境から放たれて、いろいろの目に遭っているうちに警戒心が育ってしまっただけです。けして「嫌われた」などという感傷を抱かず冷静に対処しましょう。

猫を無事保護したら

保護できた方、おめでとうございます。

猫は、帰宅してからも他人の家につれこまれたと思い込んで鳴いたりします。
食欲があればごはんをあげて、そっと放置か、抱っこしましょう。
いつもしてあげていることがあれば、それをするといいでしょう。
私の猫の場合、ブラッシングされるのが好きなので、

それをしてあげたら途端におとなしくなりました。

猫の様子を見て、獣医へ連れていきましょう。
場合によっては、重大な病気の発見につながることもあるようです。

急ぐ必要はありませんが、必ず、各機関へ発見の連絡を行いましょう。
各機関の作業を減らすことが、

自分以外の猫を探している人への協力にもつながります。

もちろん、ネットの掲示板や twitter での報告もしましょう。

ビラを回収しましょう。

私の場合、ビラの回収には手順を踏みました。
まずはビラのメモをすべてちぎって、連絡先をつぶしておきました。
それから報告シールを貼りました。

ご覧になって、実際に心配した人がいたかもしれないためです。
迷惑に感じた方もいたことでしょう。
その界限に住む自分以外の猫好きさんのためにも、

報告シールを貼る必要を感じました。

文面はこうです。

「ご協力により無事保護しました。ありがとうございました！」

このビラは近日撤去します。

猫の行いでご迷惑をおかけした方がいらっしゃいましたら申し訳ありませんでした。

今後は責任を以って世話します」

この紙に両面テープを張って、すべてのビラに貼り付けました。

それから間を置いて、改めてビラを回収しました。

ビラへの反応はさまざまでした。

後日最終的な回収に向かったとき... よほど気に入らなかったのでしょうか。

報告シールがわざわざ破り捨てられているビラもありました。

連絡先をつぶしておいて本当によかったと思います。

一方では、報告シールの脇に手描きで「OK」とペンでサインが記されているものもありました。

これは「もう迷惑をおかけしません」という一文に対する「よろしい」というお褒めの言葉だと思われました。

彼らはお互いを知らないままでしょう。けれど探し手は彼らの両方を知っています。

そして、どちらも人間なのです。

余段ですが、発見者さんには後日お礼に伺いました。

ささやかなものでしたが御礼を進呈しました。

最初は遠慮されていましたが、

見つけても連絡してくださらない方もあるので感謝していること、

お詫びの意味合いもあることとお話すると、

快く受け取ってくださいました。

この個人的な騒動はあの恐ろしい震災の一ヶ月後の出来事でした。

都内でも交通網、電力の問題、何より精神面での疲労や傷跡が生々しい時期でした。

そんな時期にたった一頭の猫を探すために奔走したことは、

なんとも悠長なことだという印象を覚えた方もあるかもしれません。

場合によってはビラを見て怒りを覚えた方もあるかもしれません。

あの震災の甚大な被害の前にたった一頭の猫の存在のなんてちっぽけなことでしょう。

猫を一頭街から見つけ出す間に、いろいろの事を確認しました。

ビラを嫌がった人も、褒めてくださった人も含め、
すべての人たちに共通していることとして、どの方も結局はとても素直に接してくださいました。
協力できないという意思表示をした方も、何度も謝られ、かえって申し訳ないほどでした。

誰一人として、この、ある意味大げさな搜索行為を表立って糾弾する人はいませんでした。
見つからないだろうからやめろ、とは言われませんでした。

この「報告シール」を貼り付けている間、

近所のおじいさんが気軽に話しかけてくれました。
よかったね、このビラはどうやってつくったの？ などと聞かれ、

あれこれ褒めてくださいました。
気にかけていたよ！ と話してくださいました。

ああ本当によかった！ と私は思いました。
そのおじいさんのご友人にも猫好きの方がいるそうで、

その方のことをお話してくださいました。
すると偶然その方が通りがかり、場は一層和やかになりました。

どこかで「悠長なことをしている」という自覚がありながら、

こうして見つけ出してみると、よくわかりました。

明るいニュースは自分が作り出すものだ、ということです。

受け止めてくださる方がいるなら、それは瞬間であっても、本当にありがたく尊いつながりです。

私たちを振り回す存在

最後にひとつ、記しておきます。

これは体験です。

ほかのすべてのアドバイスは、当然私一人で編み出したものではありません。

このアドバイスは私独自のものです。

最も不安を覚え、猫の死を疑ったのは二日目の夜だったかもしれません。

近所に、普段は目を留めない竹やぶがあるのに気づきました。

普段からそのあたりを通れば視界に入ってくる場所です。

けれども「猫を探す」状態でなければ気にも留めない場所です。

深夜、私は改めてそのあたりを注意深く見てまわりました。

正直なところ、夜中じっと見て回るには不向きな外観でした。

不動産会社の看板がありました。

長いこと放置されている土地であるのは、その草木の自由な繁殖の様子から明らかでした。

もしも猫が死ぬなら。

もしも猫が死に場所を求めていなくなる、というのなら、この場所ではないだろうか。

象の墓場があるように、猫も人知れず目指す場所があるといます。

けれど、本当に死ぬ瞬間に、彼らは死ぬ場所を目指していると言い切れるのでしょうか。

最後まで生きる場所を探して、たどりついてしまう場所があるだけではないのでしょうか。

なぜなら、特に猫においては本能が理性を凌駕するためです。

そのため交通事故にも遭いやすいのです。

そのためあんなにも愛らしく機敏な仕草で動くのです。

その鬱蒼たる竹やぶを見て回ったことは私から気力をごっそりと奪いました。

けれど、例え死ぬとしても、きっと、こんな場所にはいない。

なぜかそう確信できました。

こればかりは理由付けができませんが、とにかくそう思いました。

私の猫だけではない。

どんな野良猫だとしても、最後まで、こんなさみしい場所を目指すことはないだろう。

なぜか強くそう感じました。

生死問わず探す覚悟が、元よりありました。

死を想定しないで探すことはかえって難しいのです。

けれども、それを想定しない限りは、隈なくしらみつぶしに探すことはできません。

このマニュアル全体を通して言いたいことは...実践する覚悟です。

その猫を愛しているなら、愛しているほど、

「死んでいたら嫌だから探さない」という無意識がどこかで働くはずです。

だからこそ、確認することは大切です。

「まず最悪の事態の予想される場に、最悪の事態がないことを確認する」作業からはじめてしまうことです。

「ここにはいないと思われる」場所をどんどん潰していくことです。

作業としてはそれほど難しいことはありません。

恥ずかしさもあるでしょう。

さて、猫一頭探すことがそんなに恥ずかしい行為でしょうか？

世の中にはもっと恥ずかしく罪深い人たちがたくさんいます。

せいぜい苦笑いをその場に醸し出す程度のものです。

軽蔑する人があるのなら、それはその人がそうした人であるにすぎません。

猫を探す人を軽蔑するのが自分であったなら、それこそが問題です。

猫がいなくなっただけで、

その瞬間から、

その猫の飼い主であることをやめてしまっていいとは思いません。

このマニュアルの目的は、何もしない方を糾弾することではありません。

あくまで、何をしていたかわからない方を手助けし、搜索を賛助するために作成しました。

不安なことから可能性を潰してしまえたなら、多少の冷静さは取り戻せるはずです。
もちろん、不安から完全に脱することはできないでしょう。
けれども、あとの方針が立てやすくなります。

できることから手足を動かすといいでしょう。それだけです。

もうひとつ、記しておきます。
探している間、ある新聞記事が目にとまりました。
2人の子供が遊んでおり、1人が穴に落ちてしまった。
もう1人が大人に訴えた。

「友達が高い穴に落ちた」と。

上から見下ろす視点で「深い穴」でなく、落ちてしまった友達の底からの視点で「高い穴」と表現したのでしょう。
記事ではこの共感の力について言及していました。

確かに、これは無邪気な子供だから為しえるような、深い共感の能力を示していると思います。
猫を探するときもそういう視点が大事かもしれません。

厳しくて難しいことかもしれませんが...
悪い意味での共感を行わないようにしましょう。
猫が事故に遭っていたら...
どこかで亡くなっていたら...
悪い想像が悪い現実を引き起こすということは本当にあるかもしれません。
その猫のためにも、その想像はやめましょう。

広範囲を大雑把に潰すことも大切です。
けれど、最初はやはり狭い範囲を丁寧に探していくことが解決につながります。
それはある意味で子供の視点が大事になります。
低い位置での視点ということではなく、共感の能力ということです。
幼い頃に探検ごっここと称して近所を遊び回った時のような視線の事です。

猫の保護につながった連絡時、
発見者の方は「うちの裏で日向ぼっこしている」とおっしゃいました。
普通の人にはそう見えるでしょう。
けれど、飼っていれば、探し続けていればわかります。
それは疲れはてて休んでいるのだと。

それがわかるのは、自分だけです。

猫を飼うとはそういうことです。

探していると、時折、野良猫が付いてきたり、隠れる姿を見かけました。

そうして野良猫に導かれるように歩いていると、この猫と話せないかと考えたりもしました。

けれども「猫がそこにいる」だけで、なんとなく、私の猫の生存も確認できたような気になるのが不思議なことでした。

探している間も、見つけ出した今でも思うことです。

その猫の運命は結局その猫が決めるのです。

例えどんな結果であったとしても、それはその猫の決めた運命だと思うのです。

睡眠時間を削って疲労困憊の末に見つけ出した飼い主の立場でありながら、私はちっとも自分のおかげで猫が見つけ出せたという実感がもてません。

今膝の上でのさばっている猫を見ていても、

「猫がそうしたいからそうした」こうなっただけであるように感じられます。

結局、飼い主はその手助けなり、補助なりの努力を最大限行うだけです。

搜索もその一環にすぎないような印象があるのです。

そして、猫の魅力とはそういうものではないでしょうか？

飼っている間も、いなくなっても、大いに振り回されてしまう。

それが猫飼い冥利に尽きるというものであります。

猫がそこにいた時も、いつでもそうではなかったでしょうか？

そう思うと...

猫の搜索をしないことは、

猫の飼い主として、

その義務を怠るというだけではなく、

彼らに振り回される喜びを感じようとしなない...

なんとももったない損失であるような気さえしてきます。

そして、どんな結果であっても...

それはその猫の運命で、その猫が決めたことです。

だから、私たちはせいぜい振り回されてしまうのがいいのではないのでしょうか。

何もしないよりは。

もちろん、探し疲れたら休むことも大事です。
「休む」のは探す行為があるから生じることです。
本当は探したいのに何もしていない状態が最も「心休まらない」状態ではないでしょうか。

例え、いろいろの事情で本当にもう諦めるしかないとしても...
心の中でまで猫の姿を見失わないようにすることが大事だと思います。
どう捜していいかわからない。
いつ見つかるかわからない。
いつまで捜せばいいかわからない。
そうだとすると、それはそれでそこにあるものです。

ただ、不安をじっと見つめる必要はありません。
それは探しているうちに、
あるいは何らかの結果を得たときに、
改めて見つめればいいものです。

不安とは関係なく、やれることはいくらでもあります。

自分のためでなく、猫のためにそれをする事です。
猫がいなくなる前からも、猫を飼うとはそういうことではないでしょうか。

ですから、長期的に捜すことをまず覚悟してしまいましょう。
私は実質四日間で保護しました。
けれど、見つかるまで何日、何週間、何ヶ月かかってもかまわないという心構えでおり
ました。

悪い想像は確かにしていませんでした。
けれど、実際、見つかると信じてまではいなかったのです。
ただ、とにかく、やるべきことはたくさんありました。
それを我慢強く地道にひとつひとつこなしていくうちに、本当に見つけることができました。

そして、私が体験する以前にも、これからも、
奇跡は世の中にあたりまえのようにたくさんあるようです。

警察へ連絡したとき、私はこう言われました。

「普通の人には猫なんかみませんからね」
けれど、こうも言われていました。
「案外見つかるものですよ」と。

あなたの猫が見つげ出されるよう、心よりお祈り申し上げます。

おまけ



「ぼんやりしてねえで、探しにいくぞ」

探しはじめたとき、

この親分（猫）にある程度ついていたら、
本当にそちらの方角では猫を見かけることが多く...
結果として地域を特定するヒントになりました。

親分（猫）ありがとう。

おまけ



「見つかった？ ねえ見つかった？」

この猫はもう一頭の飼い猫です。

何かのヒントをもたらすどころか、

一切役に立ちませんでした。

チラシ作成の間、キーボードにのる、プリンタをつまらせる...

検索中は付いてくるだけで、何もヒントになるような行動はしない...

さすがにもう寝ようというときに、自分は外へ出たいと主張するなど、驚きの役に立たなさでした。

むしろ、何がしかの妨害工作をしているようにも見えました。

けれど、この猫がいたのでくじけないでいられました。

心からとても励まされました。
どうもありがとう。

おまけ



「よくあることよ」

この子はもと野良猫でした。

とても生命力の強い人です。

猫ですが...

くれぐれも無茶しないで探しましょう。

これは見つけてから数日後の画像です。

生きててくれてありがとう。

おかげで迎えに行くことができました。

これからもお世話させていただきます。

おまけ



この書籍をご覧いただいた約一名様に、不使用ピラと役に立たなかった猫がセットで当たる！

Twitter アカウントで今すぐ応募！

※嘘っぱちです。ただし猫検索に利用したアカウントは消しておらず、奥付にございます。フォローご自由に！

奥付

改訂履歴

2011.11.06 改訂しました。

2014.02.16 表紙を変更しました。

奥付

にゃんこ検索マニュアル

著者：くろかわ

感想はこちらのコメントへ

../../../../book/25002

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/25002>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<https://puboo.jp/>)

運営会社：株式会社 paperboy&co.

にゃんこ検索マニュアル

著 K

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
